

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400906		
法人名	社会福祉法人 函館大庚会		
事業所名	グループホーム こんはこだて		
所在地	函館市時任町35番4号		
自己評価作成日	平成22年11月30日	評価結果市町村受理日	平成23年1月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/kaigo/ApplicationServlet?ACTIONTYPE=ViewDetailAction&amp;JIGYOCODE=0171400906&amp;SERVICECODE=88">http://www.wam.go.jp/kaigo/ApplicationServlet?ACTIONTYPE=ViewDetailAction&amp;JIGYOCODE=0171400906&amp;SERVICECODE=88</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成22年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>●季節行事や地域交流行事を積極的に行い、利用者やご家族、地域の方々との交流の場を設け、ふれあいの機会を大切にしている。</p> <p>●玄関にて犬(ラブラドル)を飼い、地域の方々に気軽に立ち寄って頂けるようにしている。犬は利用者の心の癒しにもなっている。</p> <p>●家庭的な雰囲気を大切にしている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>運営母体は医療法人でもあり、市内で各種介護保険事業を幅広く展開している。市内で2番目に開設した当事業所は、敷地内にグループホームや包括支援センター、クリニック、通所リハビリ、訪問リハビリ、ケアプランセンターがあり、会議やイベント、訓練など合同で実施することがある。事業所恒例の地域交流事業は利用者の家族からの差し入れで、イカの無料配布と、バーベキューのイベントには、地域の子供達も大勢参加し、併設の事業所と合同で盛大に行われている。職員の人数も充実しており、利用者に手厚いケアを実践している事業所である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域の中で一人ひとりが自分らしく当たり前の生活を送る』を運営理念とし、ケア理念は入居者の変化に合わせて見直しをし、理念を印刷したカードを身分証明書ケース等に携帯させている。	地域の中で自分らしさを主体とした運営理念と、利用者の自立と自己決定、笑顔で接する支援を柱に置いたケア理念を作成している。職員はネームプレートの裏に記入して共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ふれあい会食等の町会行事に積極的に参加している。地域交流イベントを開催し地域住民との交流を図っている。	利用者は町内会のふれあい会食や敬老会、もちつきなどに積極的に参加し、事業所のイベントには、町内会の方々の協力があり、利用者は地域の一員として生活している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症について話し合いをした事がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場で報告・話し合いを行っている。町会の方々に意見を頂き、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議は、併設の事業所と合同で定期的に年4回開催している。町内会行事の情報や評価結果、現在取り組んでいる課題の意見をいただき、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は年6回以上開催するよう期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加頂き、意見をもらい相談等にもって頂いている。	市担当者とは、相談事項などで一緒に解決を図ったり、研修会の情報を交換するなど、常に連携を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や法人の勉強会に参加し理解を深め、玄関の施錠を含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアへの意識は極めて高く、内部研修を実施し、職員間で意識の統一を図っている。日中、玄関は施錠することなく出入りは自由であり、居室も鍵はしていない。	

グループホーム こんはこだて

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や法人の勉強会に参加学ぶ機会を持ち、虐待を見過ごさないよう努めている。					
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や法人の勉強会に参加学ぶ機会を持ち、活用している。					
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時等に、契約書・重要事項説明書・医療連携説明書を基に、説明を行い理解・納得を図っている。					
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、利用者から意見・要望を聞き取りしている(意見・要望を言えない方もいる)。ご家族からは、来所時や電話などで意見・要望を聞き取りし、運営に反映させている。	家族とは、気軽に話し合える関係を築き、来所時や電話、運営推進会議などで意見・要望(例えば家族会の開催時間の変更)を聞いている。出された課題は、職員会議で検討し、運営に反映させている。				
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートに書いたり、ミーティングの場で随時話し合いを持ち、反映させている。	職員に意見や提案がある時は、申し送りやミーティングで管理者と話し合い、運営者に伝えており、結果は直ちに運営に反映させ、職員の働く意欲の向上に繋げている。				
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力・実績の把握に努め、職場環境・条件整備を行っている。					
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームや職員個々のニーズに合った研修を受けるようにし、法人内・ホーム内でも勉強会を行い、働きながらトレーニングしている。					
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック毎に勉強会や交流の機会を持ち、出来る限り参加している。相互訪問は行っていない。					

グループホーム こんはこだて

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人との話し合いを持ち、センター方式を活用しながら、希望・要望等をくみ取り、本人との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族との話し合いを持ち、不安・要望等の聞き取りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との話し合いを持ち、今何が必要かを聞き取り・見極め支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	運営理念・ケア理念に基づいて、利用者の自由・自立・選択を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や地域交流に参加を頂き、本人と家族との絆が保たれるよう、関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き付けの美容室に行っている。冠婚葬祭への出席については家族と連携して対応している。	馴染みの美容室、冠婚葬祭の付き添いなど、家族と相談しながら利用者の望む馴染みの場所や人との交流を継続支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握し孤立しないようにしている。トラブル等予測される時は、さりげなく回避に努め、周囲への配慮にも努める。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までその様なケースがなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族への聞き取りや、基本台帳やセンター方式シートの情報を基に把握に努めている。	利用者がその人らしく暮らし続ける支援に向けて、管理者と職員は意向の把握につとめ、困難な時は、家族からの情報を得たり、表情を観察し支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族への聞き取りや、基本台帳やセンター方式シートの情報を基に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を導入し、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時カンファレンスを行い、介護計画を作成している。	センター方式のシートに、本人の気持ちや家族の要望と職員の気づきを克明に記録し、主治医と協議し、職員と意見交換やモニタリングをして担当者が介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき実践し、気づき等を個別に記録、情報共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイ・デイサービスの受け入れ体制がない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の避難訓練で消防署に協力頂いている。ホームの行事等に町会の方に協力頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じ、かねてからのかかりつけ医療機関受診の支援をしている他、連携する医療機関として、隣接する診療所、整形外科、歯科、眼科を確保し支援している。	従来のかかりつけ医の受診は可能であり、契約時に家族に説明しているが、母体が医療法人でもあり、複数の医療機関と関係を密にし、適切な医療が受けられるよう支援している。	

グループホーム こんはこだて

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として看護職員は居ない。訪問看護ステーションと連携を図っている。(週1回木曜日午後)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病棟へ入院時に介護添書を作成し渡している。入院中は頻りに面会に行き、状況把握に努め、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族への意思確認している。本人の希望は時間をかけ聞き取るようにしている。	入居時に家族に終末期の説明をしているが、重度化に伴い、医師の判断と指示により、家族と繰り返し確認し合いながら支援をし、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受けてから、何年か経過しており、受けて居ない職員も増えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。その際町会の方にも参加して頂き、協力体制を築いている。	年2回の火災訓練、避難訓練は夜間を想定して、町内会緊急連絡網を作成し、地域の方々と協力体制を築き訓練を実施している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人との親密感を大切にしながらも、誇りやプライバシーを損ねないよう節度を持って対応している。	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの確保を徹底するために勉強会を実施し、職員は節度をもって対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、自分の特徴を活かし相手に合わせた働きかけをし、本人が希望を表しやすいようにしたり、自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の出来ること、やりたいことをふまえて場面作りをし対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が出来ない所を、声掛けや介助にて行っている。		

グループホーム こんはこだて

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き、準備等出来る方とは一緒に行き、昼食は職員も同席し一緒に食べる楽しさを感じて頂けるようにしている。	その日のメニューは、法人の管理栄養士の指導を受け、利用者の嗜好に合わせた献立としている。盛り付けや後片付け、職員と一緒にの食事など楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接するクリニックの栄養士が立てた献立を基にし、栄養バランスを確保。各自が摂取した物や量については、職員間で共有し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の習慣を尊重しながらも、口腔状態や力に合わせた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜分けて尿取りパット、リハビリパンツ、テープ式と使い分けている。時間での排泄誘導を促し、可能な限りオムツの使用を軽減している。	排泄チェック表を参考に、トイレ誘導や声かけで、トイレでの排泄支援をし、昼夜、区別しての尿とりパット、テープ式使用など自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握。ファイバーの活用、腹部マッサージ等行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意向を確認して入浴している。職員一人付きゆったり過せるようにしている。	本人の希望でいつでも入浴でき、職員が必ず付き添い、ゆったり入浴できる支援をしている。拒否傾向の利用者は、好きな音楽を流したり、職員が踊りながら浴室に誘導し、個々に合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や状況を職員間で共有し、適度な活動や休息のバランスを取るようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホーム側で管理し、服用時に本人の力量に応じて手渡したり、口に入れる等の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ること、したいことを踏まえて場面作りをしている。気晴らしの為散歩・外出等している。		

グループホーム こんはこだて

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員で一緒に行動は出来ないが、個別にあるいは2~3人ごとに外出している。ホーム車や福祉タクシー等使用し遠出もしている。(市内観光・観劇)	その日の天気や要望に合わせて外出支援をしている。地域の行事参加や季節に合わせての遠出のドライブは福祉タクシーを利用して外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と相談して、本人管理のお金を持っている方は現在2名。他の方はホームにて管理してはいるが、いつでも使えるようになっていく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コートレスホンを活用し、居室でも使用出来るようにしている。手紙は読めない方には、職員が代読等している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般的な家具を配置。不快や混乱を招くことのないよう配慮し、季節を感じて頂けるよう季節行事に応じた飾りつけ等もしている。	二階建ての事業所で、日中、利用者は一階に居ることが多く、対面式の台所や家具の配置も家庭的であり、居間にクリスマスの飾りがあり季節を感じるが、不快な臭いを感じる。	玄関に、利用者の心を癒してくれるラブラドルの愛犬がいる。夏場は外にいるが、冬は玄関の中なので不快な臭いになるのかは分からないが、訪問者に配慮して工夫することを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の座る場所に配慮したり、廊下の活用、リビングや和室ソファの配置を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具を使用している。身体の状態を踏まえて、個別なしつらえにしている。	利用者の身体の状態に合わせてたり、家族と本人が相談し在宅当時の家具、日用品が持ち込まれ、一人ひとりが個性的な居室にし、居心地の良さに工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建設当初の手すりの他、市販の手すりも設置している。テーブルや椅子は高さ調整、本人の状態に合わせて使用、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		